2020年7月5日　朝　礼　拝　順　序　（　午前10時半　）　　(№27)

司式　熊田雄二牧師

前　　奏　　奏楽　大日南苗香姉妹

開　会　招　詞

＊賛　美　歌　1：1　**われら主をたたえまし　きよき御名あがめばや**

来る日ごとほめ歌わん　神にまし王にます　主のみいつ類なし　アーメン

＊開　会　祈　祷

罪　の　告　白　祈祷書2　(詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十　　戒　　祈祷書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰っしないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人　　のものをむさぼってはならない。　　(出エジプト20、申命記5)

＊賛　美　歌　71 それ神は

それ神はその独り子をたもうほどに　世を愛したまえり

すべて彼を信ずる者の　滅びずして　とこしえの命を得んためなり

それ神は世を愛したまえり　世を愛したまえり　　アーメン

公同の祈祷　　祈祷書26　聖餐式主日 ① 記念

あわれみ深い天の父なる神さま、あなたを讃えます。
わたしたちの救い主は、苦しみを受けて死ぬ前、聖餐式を制定し、主が再び来られるときまで、主の死を記念して覚えるようにとお命じになりました。
それゆえ、わたしたちは、聖餐にあずかるとき、主の受肉と聖なる生涯、苦しみに満ちた死と栄光に満ちた復活、昇天と神の右への着座を覚えます。そして、絶えずわたしたちのために執り成してくださっていることを感謝します。

(Iコリント11、ローマ8、ヘブライ8〜10)

献　　金　　（黒）教会活動　（赤）全国高校生会　　70

今ささぐるそなえものを　主よ　きよめて　うけたまえ　アーメン

聖　書　朗　読　　マタイ福音書28章16-20節（新約聖書６０頁）

説　　教・祈祷　　礼拝は生命⑦「聖書朗読と説教」　　熊田雄二牧師

＊ 賛　美　歌　　60：1　命の御言葉

命の御言葉たえにくすし　見えざる御神の旨を示し、仕えまつる道を教う
命の御言葉たえなるかな　命の御言葉くすしきかな　　アーメン

＊ 主　の　祈　り　　祈祷書1

天にましますわれらの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ　御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり　　アーメン。

＊ 頌　　栄　　66世をこぞりて

世をこぞりてほめたたえよ　御栄え尽きせぬ　**あまつ神を　アーメン**

＊ 祝　　祷

後　　奏　　（黙祷）

報　　告　　門脇献一長老

Ⅰ　「礼拝指針」　　第七章　聖書の公的朗読と傾聴

第二十条（聖書の公的朗読と傾聴）

公的礼拝においてなされる聖書朗読の傾聴は、礼拝の重要な要素の一つであるから、聖書朗読者は祈祷と共に、よく準備して朗読する。

礼拝の司式は長老がして、牧師は説教だけという教会では、牧師の聖書朗読がヘタになりはしないかと、余計な心配をしてしまいます。上福岡教会では、朝拝は牧師が司式もして、夕拝は長老が司式をするという方針が、かなり早い段階からあったようです。私が上福岡教会の礼拝を経験し始めたのは40年前ですが、すでに朝拝は牧師が司式をしていました。

10年前から始めた聖書朗読・聖餐式夕拝では、かなりの分量を読むようになりましたので、志願した信徒の朗読者と共に、長老もだんだん上手になってきました。朗読の基本や技術はあれこれありますが、細かい注文はほとんど付けませんでした。古代や中世の教会の礼拝を想像してくださいと言ってきました。つまり、信徒が聖書を持っていない時代は、教会で朗読されるのを聴く以外にないという状態です。それを想像すると、聴いて分かるように朗読することを心がけますから、案外早く上達するようです。

印刷機の発明以前は、手書き写本ですので、書物は大変高価で、通常の信徒は持っていませんでした。持っていても、教会に持って行くのは困難なほど大きいものでした。

実は、聖書朗読の大切さは、ローマ・カトリック教会の礼拝改革によって影響を受けたプロテスタントの反省でもあるのです。20世紀半ばの第二バチカン公会議によって、各国語でミサが献げられるようになりましたから、信徒は「分かる」言葉で聖書朗読も聴くようになりました。

プロテスタントの「聖書のみ」という信仰とスローガンは正しいのですが、説教を聴きに教会に行くという、説教偏重型の礼拝になりがちでした。すると、聖書朗読は説教の前座を務める参考文献、献金は聴講料となります。しかし、聖書を持って教会に行くのは、講演会に行くのとは違うのです。神を礼拝し神の言葉に聴き従うために行くのです。

第二十一条（聖書朗読の範囲）

聖書箇所の選択と朗読の範囲は、牧師の判断にまかせられる。牧師は、会衆が聖書朗読をとおしてその使信全体を十分に聞き取ることができるように配慮する。

これは、聖書朗読は聖書が語ろうとするメッセージ(使信)を聞き取れる範囲の分量が必要という心得です。そこで、朗読した聖書箇所から１回の説教でメッセージを全て語ることができない場合、同じ聖書箇所から２～３回説教することがあります。

第二十二条（聖書日課の使用）

礼拝で用いられる聖書章句の選択は自由になされてもよいが、その導きとなる聖書日課（ペリコーペ）を使用することは有益である。

説教箇所とは別に、礼拝で旧新約聖書それぞれ朗読される聖書日課は、信徒が聖書を持っていない時代、特に必要でした。そのような時代、教会で聖書朗読を担当する下級司祭の学校「レクターズ・スクール」というのがあり、プロテスタントにもしばらく残りました。印刷の発明によって聖書が普及するにつれ、そのような専門職は必要とされなくなるのですが、朗読力は次第に退化したように思います。

進化という言葉を好む現代人は、昔より今の方が進んでいるように思いがちですが、朗読力は退化してきたのではないかと思わされます。去年、『聴くドラマ聖書』というのができて、無料でパソコンやスマホで聴くことができます。何十人もの俳優が朗読して、音響効果も使われているので、臨場感たっぷりです。が、500年前、朗読を担当する下級司祭「レクター」は、一人でそれをやっていたのだとすると、相当な力量です。

印刷技術が発明されて以来の情報革命となった現代、読書力も退化しつつあると思わされます。その他、進化という言葉の陰には何かが退化していると思わないと、昔より今の方が優れていると思い上がる心になりがちです。文明の利器がないから優れていた、情報量が少ないから質の高い文化を保っていたということは多々あるのです。

Ⅱ　礼拝指針　　**第十章　御言葉の説教**

第三十六条（御言葉の説教と牧師）

御言葉の説教は、人の救いのために神が定められたもので、主イエスの御言葉に仕える卓越したわざの一つである。牧師は、真理の御言葉を正しく解釈し、説教の務めに勤勉に励み、恥じるところのない働き人であることを証しする。

「真理の御言葉を正しく解釈」する基盤が、聖書真理の体系です。旧新約の救済史体系と教理の体系です。それは役員誓約事項の「聖書真理の体系」であり、教会学校の教材が「聖書と教理問答」ということにも通じるものです。聖書真理の体系の基礎になるのは「歴史的信条」や「現代的課題に対する信仰の宣言」などですが、それらは聖書解釈のルールを積み重ねてきた作業でもあります。

第三十七条（説教の目的）

説教の目的は、聖書の教えを明らかに示し、礼拝者に適用することである。そのため、説教においては、聖書を説き明かし、今の時代の人々がその使信を理解できるように語られなければならない。

「適用」により、今語られる神の言葉としての説教は、その時、その教会に、一つだけあるものです。牧師は、他人の「説教」を拝借して済ませるわけにはいかないのです。牧師がいないのなら、優れた先生の「説教集」から長老が朗読するということもあり得ます。

第三十八条（説教者の心得）

説教には、研究・黙想・祈りが必要である。牧師は、不謹慎な即興的演説にふけったり、安易な自己主張、軽薄な知識をもって努力なしに神に仕えたりすることなく、聖霊の導きを求めつつ、慎重に説教の準備をなし、福音の単純性を保ち、すべての人が理解できるよ

うな言葉で、会衆への愛をもって説教する。
「不謹慎な即興的演説」は、聖霊の導きのままに語るというペンテコステ運動の影響によって入る可能性があり、現に40年ぐらい前、改革派教会の牧師が免職除名になったことがありました。「安易な自己主張、軽薄な知識」は、自論を聖書に語らせようとする社会福音の運動によって入る可能性があります。しかし、「福音の単純性」を保つことは、改革派や長老派に欠けがちな点でした。信条や神学が包括詳細になるにつれ、複雑で難しくなるからです。

第三十九条（説教と牧会）
牧師は説教と牧会の務めが不可分であるゆえ、牧会している信徒の魂を常に配慮しつつ、説教するように努める。また、牧師は、説教において語る福音を自らの生活をもって飾り、言葉と行ないにおいて信者の模範となるように努める。
牧師の有言実行は当然求められますが、年間テーマの説教、献金の説教などは、牧会的説教として、役員と協議しながら入れるようになりました。

第四十条（公的礼拝における説教）
主の日の公的礼拝においては、説教が中心的位置を占め、最も重んじられる。しかし、説教が礼拝を独占すべきではない。
これが礼拝改革の一因となった典礼（リタージー、式次第）のバランスです。　「説教が礼拝を独占」しがちな「神学講演的説教」は、いつの時代も要注意です。

Ⅲ　説教を聴く者の心得

主イエスは、「命じておいたことをすべて守るように」と言われました。だから、御言葉は好き嫌いを言わずに食べることが大事です。片寄った食生活の危険は、心の食べものにもあるのです。健全な霊的食生活をしないと、キリストのかたちに養われません。キリスト者はキリストに似た者となることが目標です。主イエスが「命じておいたことすべて」は、旧新約聖書に一貫していますから、「聖書は私について証ししている」と主イエスは言われました。
十戒の中でも道徳的教え＝隣人愛は好むが、偶像礼拝の禁止など神を礼拝する戒めは好まないという、キリスト教「的な」人たちがいます。その結果、健全な教えを聞こうとしないので、魂の病人になります。お菓子ばかり食べてご飯を食べないと、病気になるのと同じです。
神の奇跡を好まず道徳的教えを好む傾向は、いつの時代にもありますが、現代もそうです。人間の常識ではありえないことを信じられないからです。しかし、人間の常識でありうることだけ話すのなら、神の言葉も信仰という言葉も要りません。人間の常識ではありえないことを起こす神こそ真の神です。ありえないことを信じてこそ信仰です。
聖書の奇跡の中心は、イエスが神であると証明することと関わっています。またキリストの復活は、それを信じる者に対して復活の希望を語ることと関わっています。だから、奇跡を語らなければ、いちばん大切なことを語らないことになります。その結果、真理からそれて、バベルの塔を目指し、神を畏れることを知らない人になるのです。

多くの人に都合のよい話をしようとすると、「宗教は皆同じだ」と、多くの人には受けます。しかし、宗教は人類の幸福に仕える手段だという思想は、ヒューマニズム、人間主義、人間中心主義です。それは聖書の教えとはまったく違うものです。世界と人類の存在目的は神にあるので、聖書は神中心です。

だから、受け入れにくい教えほど大事なのです。処女降誕や復活を教えないのが、人受けする近代自由主義神学ですが、処女降誕と復活は、いずれも普通では起らない命の「誕生」です。しかし、それは私たちのためになされました。キリストにおける新たな命の誕生が、信じる者の新たな命の誕生に関わるのです。